

歯内療法難症例に対する顕微鏡歯科治療アプローチ
Operative Microscopic treatment approach for accidental cases
of endodontic therapy

石井 信之

神奈川歯科大学 歯科保存学講座歯内療法学分野

抄録

神奈川歯科大学附属病院に歯内療法難症例として紹介来院した 223 症例(2009 ~2022) に対して疾患原因の確定診断を行った。その結果、歯根破折 85 症例(38%)、穿孔 35 症例 (16%)、ファイル破折 28 症例(13%)、非歯原性疼痛 42 症例(19%)、原因不明 33 症例 (15%) に分類された。

歯根破折 85 症例のうち根管象牙質に垂直亀裂所見が 35 症例に確認された。いずれも前 医の治療経過から直接抜髄治療後に垂直打診痛が持続し、6 ヶ月以上の根管治療を継続し た症例であり、患歯に対して強い保存治療を希望した。すべての患者に対してインフォ ムドコンセントを行い、MTA セメントを使用した根管象牙質亀裂部の封鎖を実施した。患 歯は 6 ヶ月から 1 年の予後経過を観察し、最終補綴に移行し経過観察中である。MTA セメ ントは骨芽細胞、象牙芽細胞、およびセメント芽細胞の石灰化促進を示すことが明らかに されており、ヒト大白歯に実験的に直接覆髄を行った研究 (Int. Endo J ; 41 : 128, 2009) において、すべての症例に象牙質再生が確認された。

国内の保険診療において直接覆髄への使用のみが認可されている。一方、国外における MTA セメントの臨床使用は多岐にわたり、歯根尖切除術における逆根管充填、穿孔部封鎖 等において優れた臨床成績が報告されている。

本講座では、抜髄症例後の歯根破折症例に対する MTA セメントの応用と共に、歯根破折 を伴う根尖性歯周炎症例に対しても、ファイバーポストコアとスーパーボンドによる根管 内歯根接着療法を行い、経過観察後に最終補綴を実施し長期経過観察中である。

国内の歯科医療を取り巻く環境は急速な高齢化社会を迎え、歯根破折による歯の喪失が 増加しつつあり、歯根破折に対する治療アプローチが急務と考えられている。今回、倫理 承認および患者同意の上で使用した MTA セメント、ファイバーポストコアとスーパーボン ドによる根管内歯根接着療法は、抜歯を回避可能な治療方法として有効であることが示さ れた。本講演では、歯内療法難症例の実態と治療 (対処) 法について解説する。

略歴

1983 年 神奈川歯科大学歯学部卒業・神奈川歯科大学歯内療法学講座助手

1992 年 フォーサイス歯学研究所免疫学教室に留学(1993 年)

1997 年 広島大学保存第二講座兼任講師(2007 年)

2004 年 神奈川歯科大学大学院口腔治療学講座講師

2007 年 神奈川歯科大学口腔治療学講座歯内療法学分野 (現：歯科保存学講座 歯内療法 学分野)

2009 年 東北大学歯内歯周治療学分野および広島大学先進医療開発科学講座兼任講師 (～2014 年)

2011 年 神奈川歯科大学副学長(～2014 年)

2015 年 九州大学・広島大学歯科保存学講座兼任講師 (現在に至る)

2021 年 神奈川歯科大学短期大学学長